

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	20223001	研究期間	平成20年度～平成24年度
研究課題名	ゲーム理論のフロンティア:理論と応用	研究代表者 (所属・職)	岡田 章（一橋大学・大学院経済学研究科・教授）

【平成23年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、ゲーム理論の先端的研究によって、「利害の対立する人間が効率的、衡平で安定な経済を実現できるか」という基本テーマを、市場・組織・政治経済学の3つの視点で探求するものであり、幾つかの重要な進展があり研究は概ね順調である。例えば、利害を異にする経済主体が効率的な資源配分を実現する制度構築の可能性を理論及び実験データで明らかにした。また、「曖昧な情報」を非協力ゲーム理論に導入して、投機的行動の可能性も分析した。これらの研究成果はトップレベルの専門誌に掲載されており、世界的に高い評価を受けている。ゲーム理論を様々な経済社会現象の解明に応用する作業などが今後の課題である。関連分野との相互交流を深め、学際的研究を発展させることも期待したい。</p>	

【平成25年度 検証結果】

検証結果	研究進捗評価結果どおりの研究成果が達成された。
A	<p>経済社会において効率性・衡平性・安定性をいかに実現するかを、市場・組織・政治経済学の3つの視点からゲーム理論の先端的研究により探求するという当初の研究目的は、研究成果の創出と公表・発信など複数の評価軸からみて、当初の予定どおりの成果が達成された。</p> <p>特に、トップレベルの国際的専門誌上での多数の研究成果の発表については期待以上の成果であると評価できる。</p>